

1-1 北海道とその周辺の最近の地震活動（1989年6月～11月）

Recent Seismic Activity in and around Hokkaido (June – November, 1989)

北海道大学 理学部

Faculty of Science, Hokkaido University

この期間の浅発地震の震央分布を第1図に示す。地震活動はきわめて静穏であり、とりたてて述べるほどの地震は発生していない。8月22日から10月7日まで46日間北海道では有感地震がなかった。1926年以降では1940年5月23日から6月30日まで39日間有感地震のなかった記録を更新するものである。¹⁾

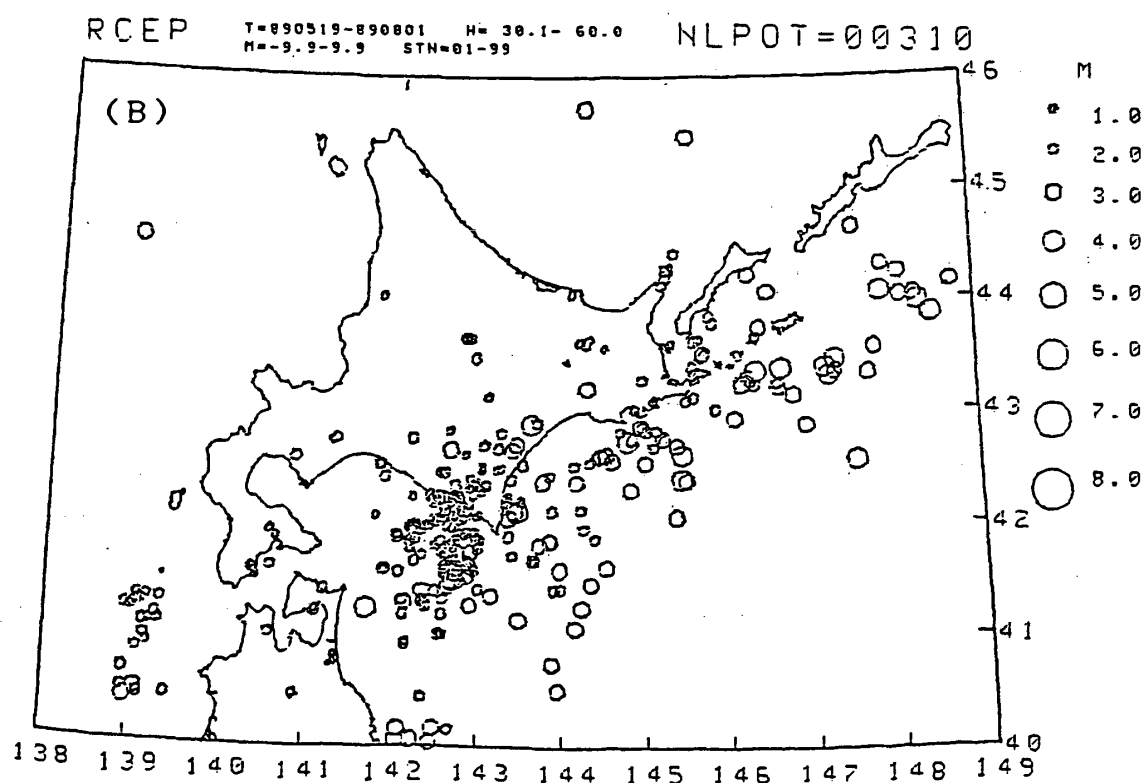
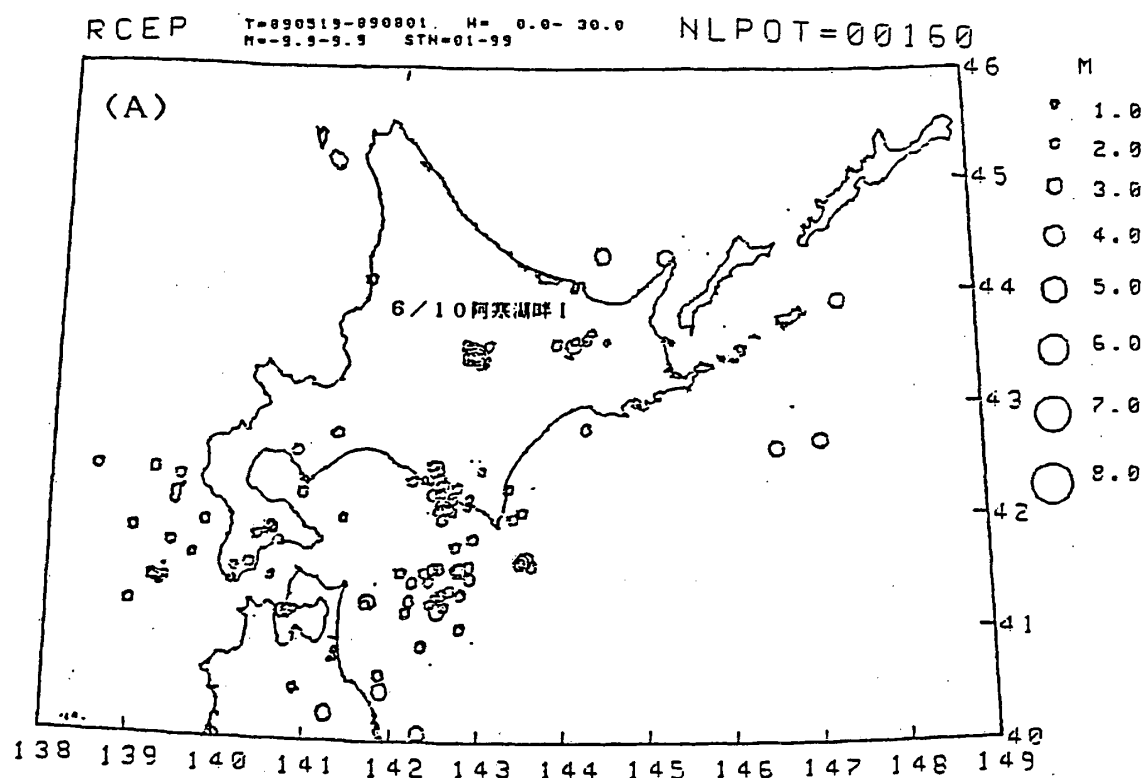
北海道とその周辺の地震発生率は1985年後半から著しく低下していることが指摘されている²⁾が、領域を第2図のように区切って調べると、領域BとCの地震活動は定常的であり、地震活動が低下していたのは領域Aのみであることがわかった。1982年浦河沖地震(M7.1)と1983年日本海中部地震(M7.7)の余震は含まれないように領域Aを設定してあるので、地震活動の低下をひき起す明白な要因はないと考えられる。ニペソツ山(十勝支庁北部)群発地震活動は未だ完全には終息していない³⁾が、第2図Aでみる限り1989年3月中旬の活動度の変化はきわめて顕著であり、その後のA領域の地震発生率は1986年以前とほとんど同じになっている。このことは、およそ3年にわたる北海道内陸の地殻活動が一段落したことを示すものかもしれない。今後新しい変化が出現するのを注意深く見守ることが必要である。

1989年10月下旬から11月上旬にかけて三陸沖で発生したM7級を含む顕著な地震活動は北海道とその周辺の地震活動に何の影響も与えていない(第2図A, B, C)。

(本谷義信)

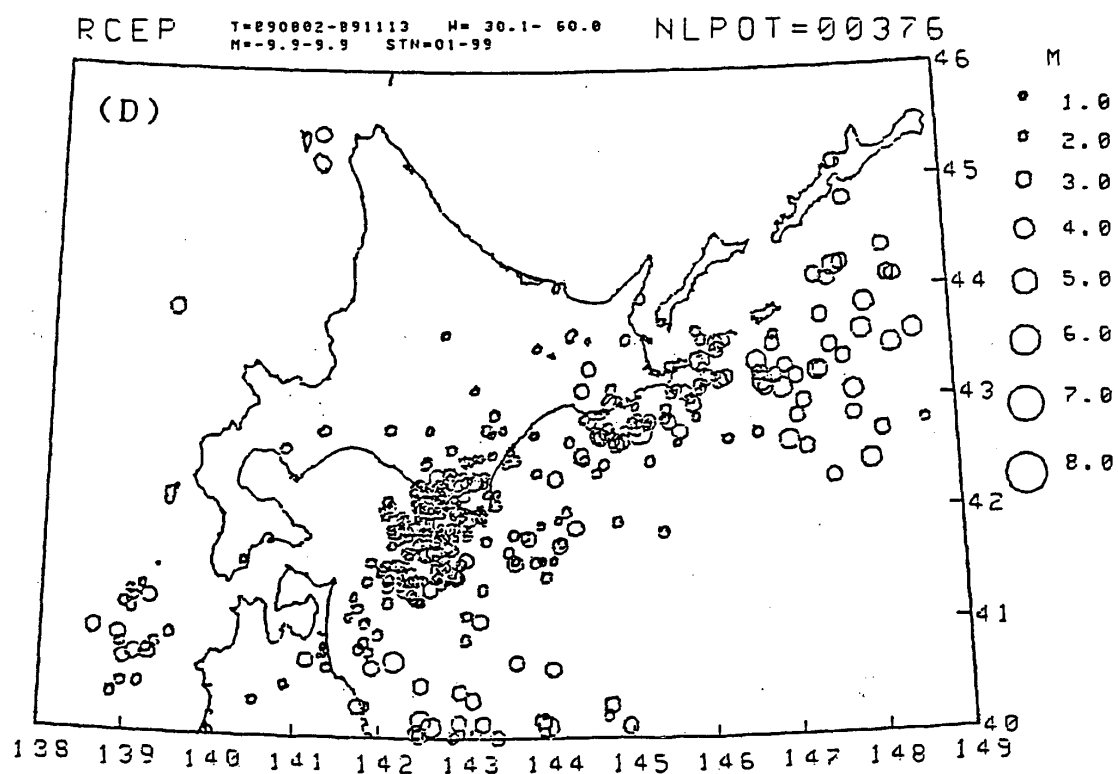
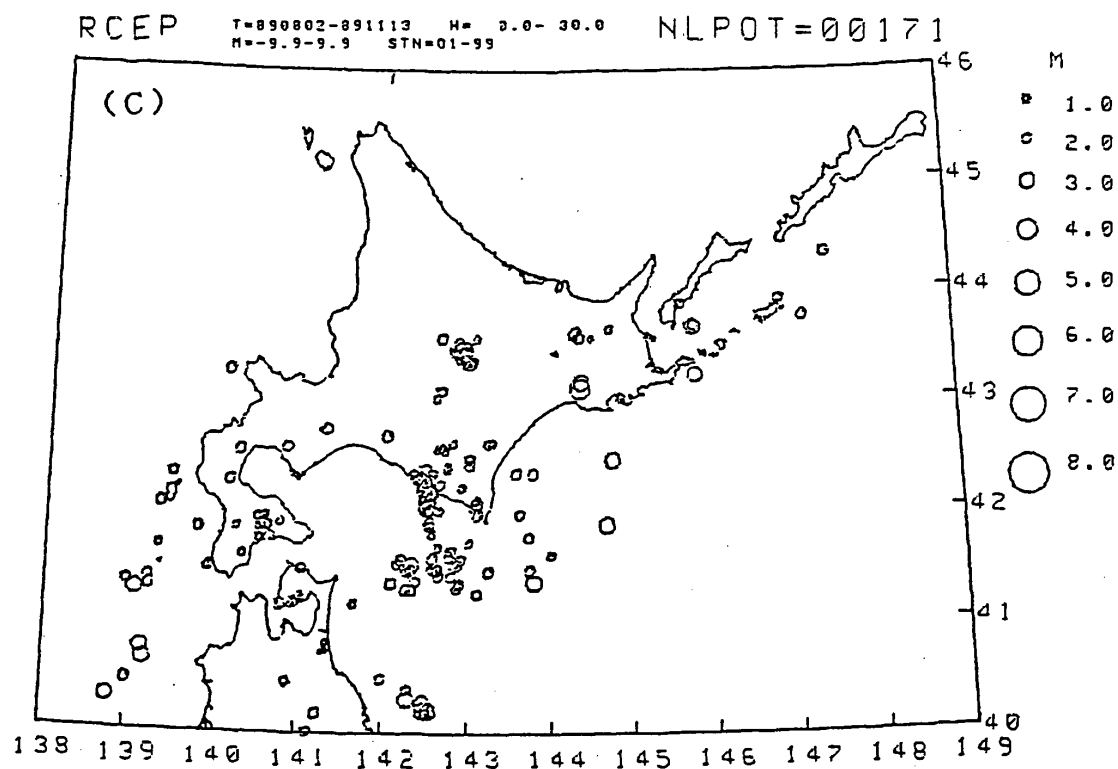
参 考 文 献

- 1) 札幌管区気象台：北海道の地震活動図，9月下旬と10月上旬（1989）。
- 2) 北大理学部：北海道とその周辺の最近の地震活動（1988年12月～1989年5月），連絡会報，**42**（1989），1－7。
- 3) 北大理学部：十勝支庁北部の群発地震活動（1989年3月～11月），連絡会報，**43**.(1990)，5－8



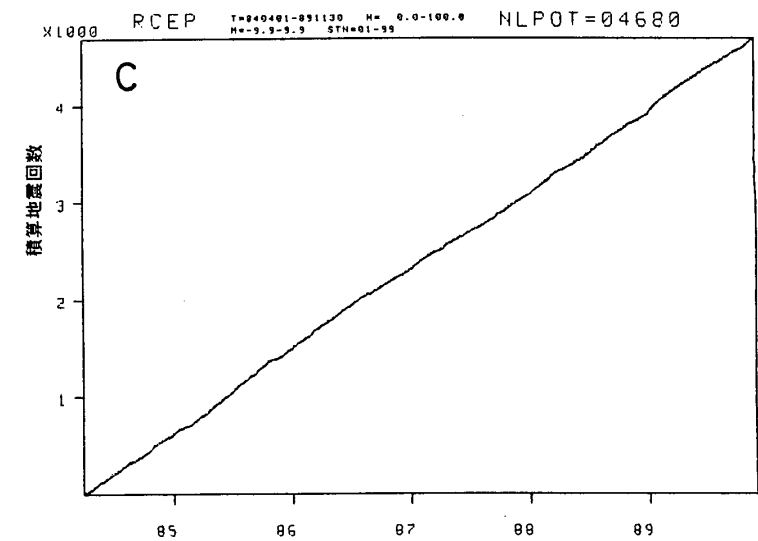
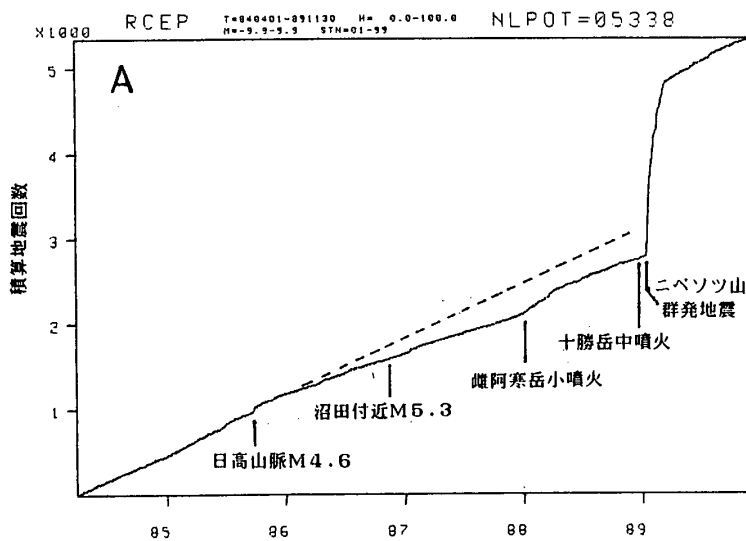
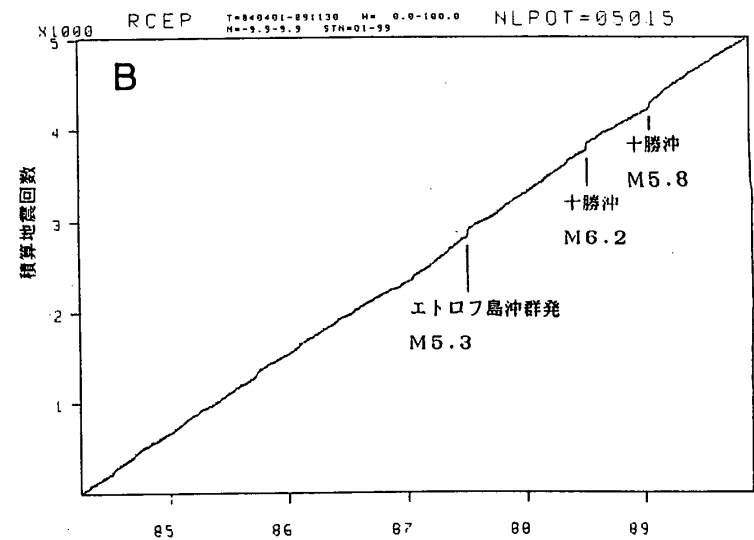
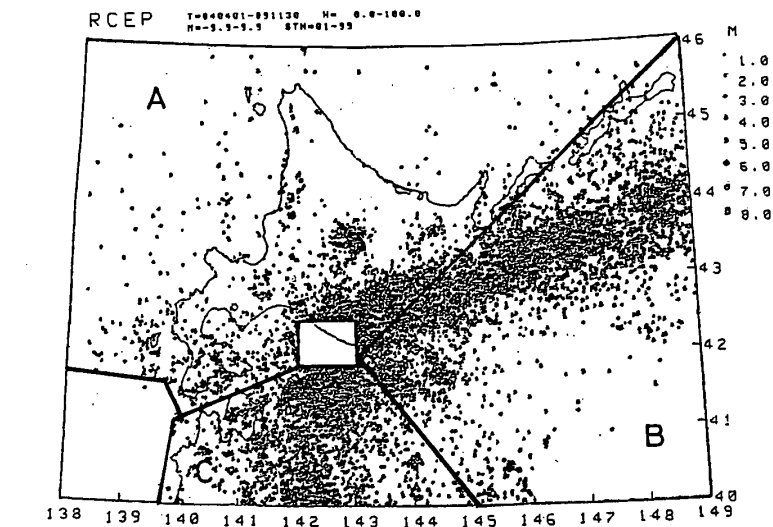
第1図 北海道とその周辺の浅発地震の震央分布 1989年5月19日～8月1日
(A) 深さ $h \leq 30\text{km}$, (B) $30 < h \leq 60\text{km}$

Fig. 1 Epicenter distributions of earthquakes in and around Hokkaido. May 19 – August 1, 1989.
(A) focal depth $h \leq 30\text{ km}$ (B) $30 < h \leq 60\text{ km}$.



第1図 (つづき) 1989年8月2日~11月13日 (C) 深さ $h \leq 30\text{km}$, (D) $30 < h \leq 60\text{km}$

Fig. 1 (Continued) August 2 – November 13, 1989.
(C) $h \leq 30\text{ km}$ (D) $30 < h \leq 60\text{ km}$.



第2図 北海道とその周辺の浅発地震 ($h \leq 100\text{km}$) の震央分布と領域A, B, Cの積算地震回数

Fig. 2 Epicenter distribution of earthquakes (focal depth $\leq 100\text{ km}$). Curves of cumulative number of earthquakes in each region, A, B, and C.